



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2014 年度第 3 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2014 年 11 月 6 日 モンレージュ

2014 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月間累計の業績結果

確認されたクレディ・アグリコル・グループの力強さ

- 事業の好調な伸び
- リスク関連費用の持続的減
- ソルベンシー・レシオの一層の強化
- **クレディ・アグリコル・グループが AQR/ストレステストに合格**

クレディ・アグリコル・グループ*

2014 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分: 14 億 6,300 万ユーロ (前年同期比+2.1%)

2014 年 9 ヶ月累計純利益グループ帰属分: 35 億 8,800 万ユーロ (前年同期比-6.6%)

2014 年度第 2 四半期における-7 億 800 万ユーロの BES 影響額を含む

2014 年 9 月 30 日現在のバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオ: 12.9% (9 ヶ月累計期間で+153 ベーシス・ポイント)

* クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の 100%。

クレディ・アグリコル S.A.

2014 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分: 7 億 5,800 万ユーロ (前年同期比+4.1%)

事業部門収益の安定: 前年同期比-0.9%**

費用の抑制

事業部門のリスク関連費用の低下: 前年同期比-19.0%

2014 年 9 ヶ月累計純利益グループ帰属分: 16 億 4,300 万ユーロ (前年同期比-13.2%)

2014 年度第 2 四半期における-7 億 800 万ユーロの BES 影響額を含む

2014 年 9 月 30 日現在のバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオ: 10.1% (9 ヶ月累計期間で+160 ベーシス・ポイント)

** DVA running 及びローン・ヘッジを除く。

クレディ・アグリコル・グループ

2014 年度の第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間に関する財務諸表を検討するため、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2014 年 11 月 5 日に開かれました。

取締役会はず、欧州各行の貸借対照表に関する ECB の包括審査の結果を分析しました。クレディ・アグリコル S.A.会長のジャン・マリ・サンデルにとって、この審査の結果は、過酷なストレスを追加資本なしに十分に吸収できる当グループにとって肯定的なものとなりました。ECB によって設定された最低基準を資本が上回っていることで、当グループは、欧州地域で最も健全な銀行の 1 つとなっています。資産査定 (AQR) の結果は CET1 レシオに対して -0.18% であり、これは、当グループの財務構造の堅固さを裏付けています。

クレディ・アグリコル・グループの 2014 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 2.1% 増の 14 億 6,300 万ユーロでした。BES の破綻処理の影響を含む 2014 年 9 ヶ月累計期間では、純利益グループ帰属分は 35 億 8,800 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレにとって、この堅調な業績は、これまでの四半期の流れに沿ったものです。これは、経済面、規制面及び財政面で厳しい環境にあるにもかかわらず、リスク関連費用の継続的な低減と全ての事業部門での事業の好調な推移によるものです。2014 年度第 3 四半期の収益は前年同期比で 1.3% 増加し、リスク関連費用は同期間に 17.1% 減少しました。

2013 年度における収益と利益の力強い伸び(したがって、高い比較基準)が達成されて以降も、不透明な経済情勢と不利な規制環境の影響を受けて低迷する市場の中でも引き続き事業を拡大しました。

顧客預かり資産は、2014 年 9 月末現在で前年同期比 2.7% 増の 5,960 億ユーロを記録しました。これは、オン・バランスシート預金の 3,500 億ユーロ(前年同期比 3.0% 増)を含んでいます。オフ・バランスシート顧客預かり資産は、生命保険残高の前年同期比 4.3% 増により 2.2% 増加しました。

ローン残高は、主に住宅ローンの 2.3% の伸びに牽引され、2014 年 9 月末現在で前年比 0.7% 増の 4,000 億ユーロに達しました。

地域銀行の純利益は、第 3 四半期に 9 億 200 万ユーロ、9 ヶ月累計期間では 27 億 1,100 万ユーロとなりました(前年同期比でそれぞれ 2.6%、2.0% の減少)。リスク関連費用は、残高の 10 ベーシス・ポイントという低い水準となり(2013 年度第 3 四半期は 19 ベーシス・ポイント)、2013 年度第 3 四半期の非常に高いベースラインからの収益減を一部補いました。

当グループの財務構造は、2014 年度第 3 四半期中に再び大幅に強化されました。

ソルベンシーについては、バーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオは、年初から 153 ベーシス・ポイント上昇して 2014 年 9 月末現在で 12.9% でした。この力強い伸びは、当グループのビジネス・モデル(内部留保及び配当再投資)、計上された株式含み益の増加、及び過去 3 年間に実施された行動計画の継続(事業の売却、リスク・ウェイト資産の削減)によって牽引されました。

クレディ・アグリコル・グループの 2014 年 9 月末現在の段階適用レバレッジ・レシオは、CRD4 方式で 4.1%、2015 年に適用される手法(2014 年 10 月 10 日に欧州委員会が採択した委任法令)では 5.1% でした。

クレディ・アグリコル S.A.

クレディ・アグリコル S.A.の2014年度第3四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比4.1%増の7億5,800万ユーロでした。

低迷が続く経済環境の中でのこの伸びは、事業部門収益の回復力、安定した営業費用、及び事業部門のリスク関連費用の継続的削減によるものです。

フランスのリテール・バンキング部門では、LCLが顧客預かり資産の力強い伸びを維持し、オン・バランスシート預金は前年同期比2.8%増、生命保険は4.7%増を達成しました。ローン残高は、引き続き住宅ローンに牽引されて1.3%増加しました。

全ての資産管理・保険部門による管理資産は、前年同期比で1,050億ユーロ増加して1兆2,290億ユーロに達しました。2014年の9ヶ月累計期間では、増加額は、290億ユーロの資金流入額(純額)を含めて850億ユーロでした。

法人営業及び投資銀行部門は、ファイナンス事業の好調な伸びと資金取引部門の堅調な貢献を実現し、特に8月の他の資本市場及び投資銀行部門の低調な実績を埋め合わせました。

営業費用は、2013年度第3四半期と比べて安定しました。費用削減プログラムは、LCLの改革計画、アムンディの新会社統合、及び保険子会社における新たな課税に関連する費用増を吸収するのに寄与しました。MUSTプログラムの下での費用削減額は、2014年9ヶ月累計期間では1億400万ユーロとなり、2012年のプログラム開始以来、総額で4億5,500万ユーロとなりました。目標総額は2016年末までに6億5,000万ユーロです。

リスク関連費用の低減は当期も継続し、前年同期比で8.0%減少しました。リスク関連費用は、前年度を9ペーシス・ポイント下回り、残高の50ペーシス・ポイントまで低下しました。この傾向は、フランスのリテール・バンキング部門で特に顕著であり、リスク関連費用はLCLで2013年度第3四半期の25ペーシス・ポイントに対して17ペーシス・ポイントとなりました。消費者金融のリスク関連費用は、イタリア子会社のアゴス・デュカトで引き続き低下しました。ファイナンス事業のリスク関連費用は、30ペーシス・ポイントと非常に低い水準で推移しました。国際リテール・バンキング部門は例外で、リスク関連費用がウクライナとイタリアで増加しました。

2014年9ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比13.2%減の16億4,300万ユーロとなりました。この減少は、もっぱらこの夏のBES危機に帰せられるものです。

クレディ・アグリコル S.A.の財務力は一段と強化され、完全適用後CET1レシオは2014年6月末現在の9.9%に対して同年9月末には10.1%となりました。このレシオは既に、慎重な価値評価の影響による10億ユーロを含んでおり、2014年度第3四半期は更に3億ユーロ増えました。

2014年9月末現在のクレディ・アグリコル S.A.の合計段階適用レシオは、年初から360ペーシス・ポイント上昇して19.2%となりました。

社会的・環境的責任

クレディ・アグリコル・グループは、気候変動に対処するという当グループのコミットメントを再確認し、低炭素経済成長を支えるための一連の施策を講じつつあります。

9月23日に開催された国連気候サミットにおいて、クレディ・アグリコル S.A.の副 CEO 兼クレディ・アグリコル CIB の CEO を務めるジャン・イヴ・オシェは、当グループ(及び具体的にはその法人営業・投資銀行部門)が実施を約束した4つの措置を紹介しました。それらの措置とは、2015年末までに200億米ドルを超える新たな「グリーン」ファイナンスをアレンジすること、CIBのファイナンス事業のカーボン・フットプリントを測定し、公表すること、全体でカーボン・フットプリントの80%超を占める部門ファイナンス方針に環境・社会基準を取り入れること、及び気候変動対策に資金を供給するための公共部門との新たな協力を提案することです。

一方、アムンディは、フランス年金積立基金(FRR)及びスウェーデンの年金基金である AP4 と協力して、MSCI Global Low Carbon Leaders Indexes をベースとした一連の革新的商品を発売しました。これらのインデックスは、低炭素エクスポージャーが市場平均を大きく下回る企業で構成されています。この一連の商品は、炭素リスク・エクスポージャーの2つの側面(炭素排出量と化石エネルギー資源の利用)に対応する最初のものです。

こうした行動は、クレディ・アグリコル・グループの企業の社会的責任(CSR)という点での実績強化に資することになります。FTSE4Good、NYSE Euronext Vigeo France 20、Vigeo Eurozone 120、Vigeo Europe 120、及び Vigeo World 120 という5つの CSR インデックスに既に組み込まれているクレディ・アグリコル S.A.は、このほど STOXX® Global ESG Leaders インデックスに加わりました。これは、環境・社会・ガバナンス(ESG)基準の観点から一連の優良企業を精選したものです。財務以外の格付けを行う Sustainalytics は、格付け対象となる世界の221の銀行グループの中で当グループを13位にランクしています。当グループは、全ての ESG 分野で前進し、現在では上位に格付けされた企業の最上位5%に入る業界リーダーとなっています。

決算スケジュール

2015年2月18日	2014年度第4四半期及び通年の決算発表
2015年5月6日	2015年度第1四半期の決算発表
2015年5月20日	年次株主総会
2015年8月4日	2015年度第2四半期及び上半期の決算発表
2015年11月5日	2015年度第3四半期の決算発表

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3*	9M-14	Change 9M/9M*
Revenues	4,013	+4.0%	11,959	+2.1%
Operating expenses	(2,764)	+0.0%	(8,250)	(0.3%)
Gross operating income	1,249	+13.9%	3,709	+8.0%
Cost of risk	(581)	(8.0%)	(1,705)	(16.2%)
Operating income	668	+43.5%	2,004	+43.3%
Share of net income from equity-accounted entities	296	(2.7%)	385	(59.2%)
Net income on other assets	3	nm	11	(13.4%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	967	+25.8%	2,400	+2.0%
Tax	(94)	(21.0%)	(448)	+19.4%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	nm	6	nm
Net income	873	+6.0%	1,958	(9.6%)
Non-controlling interests	115	+21.2%	315	+15.3%
Net income Group share	758	+4.1%	1,643	(13.2%)

* 比例法に基づいて 2013 年に連結対象となった持分法適用子会社及び IFRS 第 5 号に従った Crelan の再分類について修正再表示。

収益は、2014 年度第 3 四半期が 40 億 1,300 万ユーロ、9 ヶ月累計期間では 119 億 5,900 万ユーロでした。これらの数字は、2014 年度第 3 四半期における合計+5,700 万ユーロの特殊要因を含んでいます(2013 年度第 3 四半期は-1 億 5,600 万ユーロ)。両年の特殊要因は、クレディ・アグリコル CIB の発行体スプレッド及びコーポレート・センターで計上されたユニット・リンク型保険契約に関連するスプレッドのほか、DVA running と法人営業・投資銀行部門におけるローン・ヘッジです。2013 年度第 3 四半期については、バンキンターの売却益(コーポレート・センターで計上された 1 億 4,300 万ユーロ)も含まれています。会計影響項目(DVA running 及びローン・ヘッジ)を除くと、事業部門の収益はわずかに 0.9%低下しました。この低下の半分は、低金利状況による LCL の住宅購入貯蓄プラン引当金に由来するものです。

営業費用は 27 億 6,400 万ユーロとなり、2013 年度第 3 四半期と比べて安定的に推移しました。MUST プログラムの下での費用節減額は、2014 年度第 3 四半期が 4,000 万ユーロとなり、2012 年のプログラム開始以来総額で 4 億 5,500 万ユーロとなりました。目標総額は 2016 年までに 6 億 5,000 万ユーロです。この費用節減額は、LCL の改革計画(800 万ユーロ)と米国、ポーランド及びアムステルダムでのアムンディによる新会社統合(700 万ユーロ)に関連して計上された費用を埋め合わせるのに寄与しました。全体では、2014 年度第 3 四半期のコスト比率は、前年同期比で 2.7 ポイント改善して 68.9%となりました。

リスク関連費用は、適度な水準で推移し、2013 年度第 3 四半期比 8.0%減の 5 億 8,100 万ユーロとなりました。事業部門のリスク関連費用は、同期間に 19.0%という大幅減を達成しました。これは主に、フランスでのリテール・バンキング事業とファイナンス事業が引き続き改善したためです。2014 年度第 3

四半期には、一般法務引当金がコーポレート・センターに設定されました。

リスク関連費用は、2013 年度第 3 四半期の 59 ベーシス・ポイント、2014 年度第 2 四半期の 52 ベーシス・ポイントに対して、年間残高の 50 ベーシス・ポイントとなりました。リテール・バンキング部門では、LCL のリスク関連費用は、17 ベーシス・ポイントという低水準に達しました(2013 年度第 3 四半期は 25 ベーシス・ポイント)。カリパルマのリスク関連費用は、2014 年度第 3 四半期に前年同期比 18.2%増の 1 億 900 万ユーロと高水準にとどまりました。消費者金融は、特にイタリア子会社のアゴス・デュカトでリスク関連費用が減少し、2014 年度第 3 四半期の同社のリスク関連費用は前年同期比 38.6%減の 1 億 2,500 万ユーロでした。全ての消費者金融子会社を通じた年間のリスク関連費用は、2013 年度第 3 四半期の 316 ベーシス・ポイントに対して 2014 年度第 3 四半期は 252 ベーシス・ポイントでした。法人営業及び投資銀行部門のリスク関連費用は低い水準にとどまりました。ファイナンス事業のリスク関連費用は、残高の 30 ベーシス・ポイントでした。

不良債権(ファイナンス・リース、クレディ・アグリコルの内部取引、及び未収利息を除く)は、顧客及び銀行間の総ローン残高の 3.9%に相当する 160 億ユーロであり、2013 年度第 3 四半期比で安定的に推移しました¹。特定引当金によってカバーされる不良債権の比率は、2013 年 9 月 30 日現在の 57.9%に対して 55.3%でした¹。2014 年度第 3 四半期の不良債権引当率は、一般引当金を含めて 72.2%でした。

持分法適用会社の純利益帰属分は、地域銀行からの寄与分である 2 億 1,200 万ユーロを含めて 2 億 9,600 万ユーロでした。

税引前利益は、2013 年度第 3 四半期の 7 億 7,100 万ユーロに対して 9 億 6,700 万ユーロとなりました²。

なお、非継続事業又は売却目的保有事業からの純利益は、証券会社である CLSA の売却とニューエッジの売却計画による影響額(1 億 6,100 万ユーロ)を含んでいます。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の 2014 年度第 3 四半期の**純利益グループ帰属分**は 7 億 5,800 万ユーロとなりました。2013 年度第 3 四半期の特殊会計要因(DVA running とローン・ヘッジ)と証券会社の影響について修正再表示すると、事業部門の純利益グループ帰属分は 12.3%増加しました。

ソルベンシー

クレディ・アグリコル S.A.の完全適用後 CET1 レシオは、2014 年 6 月末現在の 9.9%に対して同年 9 月末現在では 10.1%となりました。当期中の 20 ベーシス・ポイントの改善は主に、CET1 資本金が 2 億ユーロ増加したことと、9 月末現在でリスク・ウェイト資産が 37 億ユーロ減の 2,876 億ユーロになったことによるものです。

¹ IFRS 第 5 号の再分類に関する試算値: Crelan、ニューエッジ、CA ブルガリアと CACF の北欧子会社、CAL ヘラス及び CA イモビリエ(2013 年 6 月 30 日)、Crelan 及び CAL ヘラス(2013 年 12 月 31 日)。

² 比例法に基づいて 2013 年に連結対象となった持分法適用子会社及び IFRS 第 5 号に従った Crelan の再分類について修正再表示。

2014 年度第 3 四半期の CET1 資本金の増加は主に、余剰金の影響額 4 億ユーロ(+13 ベーシス・ポイント)と、低金利の持続に伴う含み益の 2 億ユーロ増(+6 ベーシス・ポイント)に由来するものです。慎重な価値評価引当金は、当期中に 3 億ユーロ(-10 ベーシス・ポイント)増額されて 10 億ユーロとなりました。リスク・ウェイト資産の減少は主に、法人営業及び投資銀行部門における信用リスクと市場リスクの低下によるものです。クレディ・アグリコル S.A.の全体的な段階適用レシオは、年初から 360 ベーシス・ポイント改善し、2014 年 9 月末現在で 19.2%でした。

クレディ・アグリコル S.A.は、当期中に 12 億 5,000 万米ドル(約 10 億ユーロ)の AT1 を発行しました。これにより、年初からの AT1 株式発行総額は 38 億ユーロに達しました¹。

流動性

クレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2013 年 12 月末現在の 1 兆 390 億ユーロ、2013 年 9 月末現在の 1 兆 490 億ユーロに対して、2014 年 9 月末現在で合計 1 兆 340 億ユーロでした。

長期資金用途に対する長期資金源の超過額は、2013 年 12 月末以降 180 億ユーロ増加して 2014 年 9 月末現在で 890 億ユーロとなり、これにより不良債権引当率は 111%となりました。

ヘアーカット後の流動性準備金は、2014 年 9 月末現在で 2,480 億ユーロに達し、総短期債務の 173%をカバーしました(2013 年度第 3 四半期及び 2013 年 12 月末現在では 168%)。当グループの LCR レシオは、2014 年 9 月末現在で 110%を超えました。

クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、市場及び支店ネットワークを通じてシニア債により、2014 年 9 ヶ月累計期間で 258 億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.単独では、上半期を中心にこの 9 ヶ月間で 102 億ユーロを調達しました。更に、クレディ・アグリコル S.A.は年初より、39 億ユーロに相当する 3 件の追加ティア 1 を発行しました。

¹ 発行手数料を除く。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Net income accounted for at equity (at ~25%)	216	(7.1%)	677	(0.6%)
Change in share of Regional Banks' net income	(4)	nm	148	(2.9%)
Share of net income of equity-accounted entities	212	(10.0%)	825	(1.1%)

低迷を続ける市場、不透明な経済情勢、不利な規制環境の中で、地域銀行は事業を引き続き拡大しました。

顧客預かり資産は、2014年9月末現在で前年同期比2.7%増の5,960億ユーロを記録しました。これは、オン・バランスシート預金の3,500億ユーロ(前年同期比3.0%増)を含んでいます。2013年9月末時点と比べたオン・バランスシート預金の伸びは、非課税貯蓄性預金(+3.3%)、要求払預金(+4.2%)、及び住宅購入貯蓄プラン(4.5%増)に牽引されたものです。定期預金のみ、前年比で0.8%減少しました。オフ・バランスシート預金は、前年比で2.2%増加しました。これは、生命保険残高の4.3%の伸びに支えられたものです。

2014年9月30日現在のローン残高は、マーケットの多様な傾向を反映して、前年同期比0.7%増の4,000億ユーロとなりました。住宅ローンは、前年比で2.3%増加した一方で、消費者信用と中小企業及びスモールビジネス向けのローンは、過去12ヶ月間にそれぞれ3.6%、3.1%減少しました。

2014年9月末現在の預貸比率¹は、2013年12月末現在と比べておよそ1パーセント・ポイント改善して115%となりました。

地域銀行の収益(グループ内取引の修正再表示後)は、2014年度第3四半期に33億ユーロとなりました。これは、ローン買戻しと早期返済によるプラス影響及び預金と資金調達のコスト低下の恩恵を受けた2013年度第3四半期の高いベースラインと比べて4.5%の減少です。2014年度第3四半期はまた、低金利の持続と平坦な利回り曲線の影響を受け、それが仲介マージンに対する圧力となりました。更に、手数料収入も不利な規制環境の影響を受け、主に口座管理・支払手数料が7.3%減少したことで、前年同期比3.4%減となりました。保険手数料は、2014年度第3四半期にはわずかに減少しましたが、2014年9ヶ月累計期間では前年同期比で0.3%増となりました。

2014年度第3四半期の営業費用は、前年同期比で0.5%減少しました。

2014年度第3四半期のリスク関連費用は、ローン残高の10ベース・ポイントへと大幅に低下しました(2013年9月末時点では19ベース・ポイント、2014年度第2四半期は22ベース・ポイン

¹ 2014年3月から方式変更。2013年12月の試算値(EIB/CDCの資金調達と顧客関連資金に分類されるユニット・リンク型契約に含まれるCAsa債、及び特定引当金を除いた顧客ローンを含む)。

ト)。当期のリスク関連費用は、2013 年度第 3 四半期比で 49.7%減の 9,400 万ユーロでした。不良債権に対する合計引当金の引当率は、2013 年 9 月末現在の 105.7%に対して 105.6%でした。不良債権比率は、ローン残高全体の 2.5%で安定しました。

2014 年度第 3 四半期の営業利益は、前年同期の 13 億 8,200 万ユーロに対して 13 億 2,800 万ユーロでした。

地域銀行の純利益帰属分の変化は、2014 年度第 3 四半期には-400 万ユーロとなりました(2013 年度第 3 四半期は 300 万ユーロのプラス寄与)。2014 年 9 ヶ月累計期間では、前年同期比で 2.9%減の 1 億 4,800 万ユーロでした。全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の 2014 年度第 3 四半期の寄与分は、前年同期の 2 億 3,500 万ユーロに対して 2 億 1,200 万ユーロでした。2014 年 9 ヶ月累計期間では、寄与分は前年同期比 1.1%減の 8 億 2,500 万ユーロとなりました。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	899	(4.6%)	2,790	(3.0%)
Operating expenses	(634)	+1.4%	(1,893)	+1.2%
Gross operating income	265	(16.4%)	897	(10.9%)
Cost of risk	(41)	(31.9%)	(166)	(23.7%)
Operating income	224	(12.8%)	731	(7.4%)
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Income before tax	224	(12.6%)	731	(7.9%)
Tax	(81)	(8.9%)	(265)	(4.0%)
Net income	143	(14.6%)	466	(10.1%)
Non-controlling interests	7	(15.7%)	23	(10.2%)
Net income Group share	136	(14.6%)	443	(10.0%)

LCL は、プロジェクト資金の調達で個人を引き続き支援しています。2014 年度第 3 四半期には、預金の増加及び堅実な貸付により、これまでの四半期に観察された趨勢が持続しました。

2014 年 9 月 30 日現在のローン残高は、前年同期比 1.3%増の 904 億ユーロでした。この伸びは、前年比 3.2%増の 578 億ユーロを記録した住宅ローンに牽引されたものです。

顧客預かり資産は、力強い事業趨勢に牽引されて前年同期比 2.6%増の 1,673 億ユーロに達しました。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、主に生命保険からの資金流入(+4.7%)により、前年同期比で 2.3%増加しました。オン・バランスシートの顧客預かり資産は、要求払預金の伸び(+8.1%)に牽引されて 2.8%増加しました。

預貸比率は、2014年6月末現在と比べて安定を維持し、2014年9月末現在で110%となりました。

収益は、住宅購入貯蓄プラン引当金の影響を除くと、前年同期比で2.2%減の8億9,900万ユーロとなりました。これは、主に2013年度第2四半期及び第3四半期にピークを迎えたローン買戻しと早期返済の影響による純金利マージン(住宅購入貯蓄プラン引当金を除く)の前年同期比4.4%減によって説明することができます。2014年度第3四半期の手数料収入は、主に保険手数料(前年同期比2.8%増)と口座管理・支払手数料(同2.1%増)に牽引され、前年同期比で1.2%増加しました。

営業費用は、引き続き適切に管理され、2014年度第3四半期は中期計画関連の支出を含めると前年同期比1.4%増でした。この事業計画関連の支出は、2014年度上半期の1,100万ユーロに続いて第3四半期は800万ユーロでした。2014年度第3四半期のコスト比率は69.1%となりました。

リスク関連費用は、全ての市場でのリスクの改善を反映し、前年同期比で31.9%減少しました。そのため、不良債権比率は2014年6月末現在と比べて2.4%と安定的に推移しました。不良債権引当率(一般引当金を含む)は、2014年6月末現在の74.0%に対して73.6%でした。リスク関連費用は、前年同期の25ベース・ポイントに対して当期は17ベース・ポイントという低い水準に達しました。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期比で14.6%減(住宅購入貯蓄プラン引当金の影響を除くと6.1%減)となる1億3,600万ユーロでした。純利益グループ帰属分は、2014年9ヶ月累計期間では4億4,300万ユーロとなりました。

2. 国際リテール・バンキング

当部門の純利益グループ帰属分は、2013 年度第 3 四半期の 1,700 万ユーロに対して 2014 年度第 3 四半期は 4,700 万ユーロでした。2014 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期の 7,000 万ユーロに対して-5 億 3,700 万ユーロとなりました。なお、2014 年度第 2 四半期については、BES の破綻処理に関係する持分法適用会社からの純利益帰属分に対する-7 億 800 万ユーロのマイナス影響が含まれています。

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	630	+4.3%	1,990	+10.1%
Operating expenses	(364)	(0.5%)	(1,094)	(2.8%)
Gross operating income	266	+11.7%	896	+31.4%
Cost of risk	(156)	+30.4%	(556)	+27.8%
Operating income	110	(7.1%)	340	+37.5%
Share of net income from equity-accounted entities		nm	(719)	x9.9
Net income on other assets		nm	(2)	nm
Change in value of goodwill		nm	-	nm
Income before taxes	110	+25.9%	(381)	nm
Tax	(37)	(26.9%)	(107)	+34.4%
Net income from discontinued or held-for-sale operations		nm	14	+8.6%
Net income	73	+92.2%	(474)	nm
Non-controlling interests	26	+29.3%	63	+33.3%
Net income Group share	47	x2.6	(537)	nm

クレディ・アグリコル S.A.の業績に対するカリパルマの寄与分

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14 ¹	Change 9M ¹ /9M ²
Revenues	410	+3.7%	1,219	+3.7%
Operating expenses	(230)	+2.3%	(691)	(2.8%)
Cost of risk	(109)	+18.2%	(319)	+8.0%
Net income	43	+21.0%	133	+15.0%
Net income Group share	32	+26.1%	96	+14.6%

¹ クレディ・アグリコル S.A.の財務諸表の締め切り後にカリパルマがその国内連結財務諸表(2013 年 12 月 31 日現在)で計上した項目を除く(すなわち、収益の+8,000 万ユーロ(このうち、イタリア中央銀行による株式再評価が+9,200 万ユーロ)、リスク関連費用の-1 億 900 万ユーロ、及びこれらの修正再表示に関連する納税額への影響)。

² イタリア中央銀行によって要求され、コーポレート・センター(2012 年度第 4 四半期)及びカリパルマの寄与分(2013 年度第 1 四半期)に計上された追加引当金(3,900 万ユーロ)の 2012 年度第 4 四半期における修正再表示後。

イタリアでは、カリパルマが引き続き支店ネットワークの改革を進め、前年同期比で業績を伸ばしました。2014年9月30日現在のローン残高は、前年比0.8%増の333億ユーロでした(住宅ローンの5.1%の伸びを含む)。オン・バランスシート預金は総額で353億ユーロでした。これにより、預貸比率(特定引当金の控除後)は89%となりました。カリパルマのオフ・バランスシート顧客預かり資産は、2013年9月末現在の514億ユーロに対して2014年9月末現在では561億ユーロとなりました。生命保険と投資信託は堅調に推移し、2013年9月末比で18.2%の伸びを記録しました。

収益は2013年初頭から堅調な伸びを示し、2014年度第3四半期には、主にマージンの改善と手数料収入の増加により前年同期比3.7%増を記録しました。マージンの伸びの主な要因は、当グループの他のイタリア子会社との間での過剰流動性の預金及び投資の平均コスト低下です。一方、手数料収入の伸びは、主にオフ・バランスシート預金の増加によるものです。

営業費用は、前年同期比で2.3%増でしたが、前9ヶ月累計期間比では2.8%減となり、引き続き抑制されています。

コスト比率は引き続き低下しており、前年同期比0.8ポイント減の56.1%、前9ヶ月累計期間比では3.8ポイント減の56.7%となりました。

リスク関連費用は、2013年度第3四半期比で18.2%増の1億900万ユーロでした。合計残高に対する不良債権比率は12.6%、引当率(一時引当金を含む)は44.2%でした。

全体では、カリパルマの純利益グループ帰属分は、2013年度第3四半期の2,500万ユーロに対して2014年度第3四半期は3,200万ユーロとなりました。

当グループの他の海外子会社は、オン・バランスシート預金額が107億ユーロ、ローン総額が101億ユーロとなっているため、2014年9月30日現在で預金がローンを超過しています。当グループの欧州子会社(カリパルマを除く)は、当部門の純利益グループ帰属分の20%を占める一方、当グループのアフリカ及び中東の子会社は15%を占めました。全体では、これら子会社の純利益グループ帰属分への寄与は、2014年度第3四半期に1,500万ユーロとなりました。

3. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、及び資産運用サービスが含まれます。

2014年9月30日現在の資産運用額は、2013年12月31日以降850億ユーロ増加して1兆2,290億ユーロとなりました。これは、事業展開の持続と好ましいマーケット効果に牽引されたものです。マーケットと為替の効果によるおよそ550億ユーロを除くと、増加額は290億ユーロ強となり、このうちの220億ユーロ強が資産運用、およそ60億ユーロが貯蓄/退職保険です。

2014年度第3四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比4.2%増の3億9,800万ユーロとなりました。2014年9ヶ月累計期間では11億5,900万ユーロとなり、このうちの67%が貯蓄/退職保険、24%が資産運用によるものです。

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	1,242	+1.1%	3,796	+0.4%
Operating expenses	(642)	+5.2%	(1,913)	+3.6%
Gross operating income	600	(2.9%)	1,883	(2.6%)
Cost of risk	(2)	nm	(47)	nm
Operating income	598	(3.7%)	1,836	(5.0%)
Share of net income from equity-accounted entities	4	x5.6	12	+8.0%
Net income on other assets	1	nm	7	nm
Income before tax	603	(3.1%)	1,855	(4.6%)
Tax	(167)	(18.3%)	(589)	(6.6%)
Net income	436	+4.3%	1,266	(3.6%)
Non-controlling interests	38	+5.5%	107	(8.9%)
Net income Group share	398	+4.2%	1,159	(3.1%)

資産運用部門では、アムンディの2014年9月末現在の資産運用額は、2013年12月末から8.6%増の8,440億ユーロとなりました。2014年9ヶ月累計期間の資金流入額(純額)は合計で223億ユーロでした(2014年度第3四半期の96億ユーロを含む)。長期資産は、主に債券、指数トラッカー、ETFが牽引役となり、258億ユーロ(2014年度第3四半期の81億ユーロを含む)を占めました。アムンディはまた、主に欧州とアジアの支店ネットワークで好業績を達成し、144億ユーロの資金流入がありました。資金流入は、フランスの支店ネットワークを除く全ての顧客セグメントによって牽引されたもので、機関投資家と大手企業(+135億ユーロ)、グループ外の販売会社(+73億ユーロ)、及び海外の支店ネットワーク(+33億ユーロ)が主に寄与しました。フランスの支店ネットワークでは、資金流出(純額)は引き続き鈍化しており、2014年9ヶ月累計期間には-18億ユーロとなりました。マネー・マーケット・ファンドを除いた資金流出額(純額)は、同じ期間に-2億ユーロに抑制され、2014年度第3四半期は1億ユーロのプラスの資金流入(純額)となりました。マーケット及び為替の効果は、この期間に445億ユーロとなりました。

この好調な事業展開、金融市場の好ましい趨勢のほか、特に当期の高いパフォーマンス・フィーを主な要因として、2014年度第3四半期の収益は、前年同期比20.9%増の4億2,000万ユーロとなりま

した。営業費用は引き続き抑制され、米国(スミス・ブリーデン)、ポーランド、オランダの新規子会社を除いて前年同期比で3.6%の微増となりました。したがって、2014年度第3四半期のコスト比率は、前年同期比で6.6ポイント改善して49.7%となりました。全体では、アムンディの純利益グループ帰属分は、2014年度第3四半期が1億900万ユーロ、2014年9ヶ月累計期間が2億7,600万ユーロとなりました。

アムンディは、引き続き海外事業拡大戦略を進めており、Bawag PSK 銀行からのオーストリアの資産運用会社 Bawag Invest の買収(所管当局の承認が条件)と160万人の個人客を有する同行との同時販売協定を10月に発表しました。アムンディは更に、2014年度第3四半期中にタイとチューリッヒで子会社を開設しました。

資産運用サービス部門では、**CACEIS** が当期に運用資産のさらなる成長を達成しました。カスタディー資産は、マーケットのプラス影響を含めて1年間で6.3%増加して2014年9月末現在で2兆3,770億ユーロとなりました。更に、運用資金は、当期に獲得した新規顧客と前四半期中の CNP Assurances サービス契約の5年更新に牽引されて、当期中に5.1%増加して2014年9月末現在で1兆3,630億ユーロとなりました。

CACEIS の業績は、低利回り HQLA 証券の増加と共に流動性とスプレッドの持続的低下による金利マージン縮小(2013年度比)の影響を受けながらも、年初以降安定を維持しています。2014年度第3四半期の純利益グループ帰属分は1,900万ユーロで、前2四半期と変わらず、前年同期比では43.0%減となりました。

プライベート・バンキング部門は、好調な事業の伸びによって2014年度第3四半期には資金流入額(純額)がプラスとなりました。運用資産額は、マーケットのプラス影響を含めて、2013年12月末から5.7%増加して2014年9月末現在でおよそ1,400億ユーロとなりました。

フランスでは、運用資産額は、2013年9月末と比べて3.1%増加して636億ユーロに増加しました。当部門が当期にイタリアで支店を開設した海外事業の伸びは+6.7%となり、資産額は761億ユーロに達しました。

2014年度第3四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比16.1%減の2,000万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・アシュアランスは、2014年度第3四半期に前年同期比18.6%増となる72億ユーロの保険料収入を計上しました。2014年9ヶ月累計期間の保険料収入総額は、前年同期比12.4%増のおよそ227億ユーロを記録しました。

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	476	(8.3%)	1,580	+0.2%
Operating expenses	(153)	+8.5%	(456)	+6.4%
Gross operating income	323	(14.5%)	1,124	(2.1%)
Cost of risk	(1)	nm	(1)	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Tax	(72)	(43.5%)	(343)	(10.1%)
Net income	250	(0.4%)	780	+1.7%
Net income Group share	250	(0.6%)	778	+1.6%

貯蓄/退職保険部門は、2014 年度第 3 四半期に前年同期比 22.0%増の 59 億ユーロの保険料収入を達成したことで、力強い成長を享受しました。2014 年 9 ヶ月累計期間の保険料収入総額は、前年同期の 157 億ユーロに対して 14.3%増となるおよそ 180 億ユーロでした。

当期のフランスでの保険料収入は、比較対象となる前年同期が高い水準であったにもかかわらず、6.5%の伸びを記録しました。国際的に見ると、特にイタリアでの業績が大きく寄与して、保険料収入は 77.1%増加しました。CA Vita は、2014 年度第 3 四半期に前年同期比 109.1%増、2014 年 9 ヶ月累計期間では同 78.3%増の成長をそれぞれ達成しました。これは、2014 年の最初の 8 ヶ月でイタリア市場全体の前年比 33%の伸びに相当します(出典:IAMA)。

2014 年 9 ヶ月累計期間の貯蓄/退職保険及び死亡・高度障害保険の資金流入額(純額)は、マーケットの影響を除き、フランスでの 38 億ユーロを含めると 67 億ユーロとなりました。

貯蓄/退職保険の運用資産額は、2014 年 9 月末時点で前年比 5.5%増の 2,451 億ユーロとなりました。ユーロ資金は前年比 4.6%増の 1,988 億ユーロを記録する一方、ユニット・リンク型のファンドは前年比 9.4%増の 463 億ユーロ(全体の 18.9%)となりました(年間で+0.7 ポイント)。

死亡・高度障害保険/健康保険/団体信用保険セグメントでは、2014 年度第 3 四半期の保険料収入は、前年同期の 8 億 1,400 万ユーロに対して 3.7%増の 8 億 4,400 万ユーロとなりました。2014 年 9 ヶ月累計期間の保険料収入は、前年同期比 4.4%増の 28 億ユーロでした。2014 年度第 3 四半期の死亡・高度障害保険/健康保険が前年同期比 5.3%増の伸びを維持する一方、団体信用保険は、好調な住宅ローン保険により 2.3%の伸びを記録しました。

損害保険は高い成長を維持しており、2014 年度第 3 四半期の保険料収入は前年同期比 8.3%増の 4 億 8,500 万ユーロ、2014 年 9 ヶ月累計期間では前年同期比 7.4%増の 19 億ユーロ強となりました。年初からの異常気象の頻発にもかかわらず、2014 年 9 ヶ月累計期間のコンバインドレシオ¹(再保険後)は 95.6%で十分に抑制されました。

2014 年度第 3 四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、特にポートフォリオ売却益の低迷、

¹ 保険料収入に対する(請求額 + 営業費用)の比率。パシフィックスコープ。

取引量関連の税金、当グループの保険事業拡大に伴う支出などによる収益減にもかかわらず、前年同期比でも安定を維持して 2 億 5,000 万ユーロとなりました。2014 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ
帰属分は、1.6%増の 7 億 7,800 万ユーロでした。

4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3*	9M-14	Change 9M/9M*
Revenues	648	(11.8%)	2,012	(8.1%)
Operating expenses	(333)	(6.6%)	(997)	(5.1%)
Gross operating income	315	(16.7%)	1,015	(10.9%)
Cost of risk	(252)	(24.2%)	(795)	(28.5%)
Operating income	63	+38.4%	220	x7.9
Share of net income from equity-accounted entities	39	+28.8%	107	+16.2%
Income before tax	102	+35.3%	327	x2.7
Tax	(10)	(65.1%)	(58)	+1.2%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	(98.6%)	(9)	nm
Net income	92	+72.5%	260	x3.2
Non-controlling interests	17	nm	27	nm
Net income Group share	75	+17.5%	233	+78.6%

* IFRS 第 5 号に従った CACF の北欧子会社の再分類及びジョイントベンチャーと自動車ローン提携事業への IFRS 第 11 号の適用について修正再表示。

2014 年度第 3 四半期における**専門金融サービス**部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の 6,300 万ユーロから 17.5%増の 7,500 万ユーロとなりました。前年比で残高が減少したことにより、当部門の収益は、前年同期比 11.8%減の 6 億 4,800 万ユーロとなりました。営業費用は、前年同期比で 6.6%減となりました。リスク関連費用は、前年同期比 24.2%減と引き続き減少しました。

消費者金融部門では、管理消費者信用残高は、2014 年 6 月末時点の 690 億ユーロに対して 687 億ユーロとほぼ横ばいでした。これは、第 1 四半期に売却した北欧子会社に関連する 4 億ユーロの効果的なエグジットを除くと、年初から安定しています。残高の地理的な内訳は、これまでの四半期とほぼ同じであり、フランスが 37.3%、イタリアが 33.5%、その他の諸国が 29.2%でした。当期の連結残高は、当期中の売却を主な要因として前年同期比 10.4%減の 341 億ユーロとなりました。自動車ローン提携事業は、2014 年 9 月末時点で前年比 4.8%増の 181 億ユーロとなる一方、クレディ・アグリコルグループの消費者信用残高は、122 億ユーロで安定を維持しました。

一方、CACF は引き続き自己調達率を高めており、これは、2013 年 9 月末から 9 ポイント上昇して 58.5%となりました。この好業績は、資金流入額が 2014 年 9 月末に前四半期比 31.2%増の 6 億 9,000 万ユーロ強に達したドイツでの(ヨーロッパンパスポートに基づく)CACF の預金事業と、当期中の FGAC による 7 億 5,000 万ユーロの EMTN 発行によるものです。

2014 年度第 3 四半期の CACF の収益は、前四半期比で 3.1%減となる 5 億 2,000 万ユーロでした。前年同期比では 14.0%減となり、これは、通年での残高の減少と資金調達コストの増加によるものです。営業費用は、回収費用最適化措置を組み入れた経営効率化計画を反映して、前年同期比で 7.7%減となりました。2014 年度第 3 四半期の消費者金融部門のリスク関連費用は、アゴス・デュカトで

の 38.6%減(他の CACF グループの子会社は-1.8%と安定を維持)を反映して、前年同期比 26.0%減となる 2 億 3,000 万ユーロとなりました。したがって、リスク関連費用は 252 ベーシス・ポイントとなり、これは前四半期比で 4 ベーシス・ポイントの改善となりますが、前年同期比では 64 ベーシス・ポイントと急速な改善となりました。当期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は 1 億 2,500 万ユーロとなり、合計消費者金融残高のリスク関連費用(252 ベーシス・ポイント)のうち 64 ベーシス・ポイントを占めています。アゴス・デュカトの不良債権比率は、前四半期の 12.6%に対して 13.6%となり、その不良債権引当率は、一時引当金を含めて 98.7%と非常に高い水準にとどまりました。アゴス・デュカトのこうした継続的なリスク改善の結果、同社は収益獲得能力を維持することができました。

当期の持分法適用会社からの寄与は、28.8%と急上昇して 3,900 万ユーロに達し、これは自動車ローン提携事業の好業績を反映しています。

全体では、CACF の純利益グループ帰属分は、前年同期比 9.8%増の 5,300 万ユーロとなりました。

リース・ファイナンス及びファクタリング部門では、事業及び地理的地域によって残高傾向にばらつきがありました。(2013 年 9 月末の-3.6%に対して)フランスでリース・ファイナンスの下降傾向が続いた結果、合計残高は前年同期比 2.1%減の 157 億ユーロとなりました。対照的に、海外のリース・ファイナンス残高は、当期中に 2.3%増の 40 億ユーロに達し、また、買取売掛債権は、4.7%増となるフランスの 95 億ユーロを含めて 9 月末現在で 8.0%増の 151 億ユーロを記録しました。

当期の CAL&F の収益は、フランスでのリース・ファイナンス残高の低下により、前年同期比 1.2%減の 1 億 2,800 万ユーロとなりました。営業費用は、当期を通じて 2.5%の微増となりました。したがって、2014 年度第 3 四半期の営業総利益は、前年同期比で 0.7%増となりました。リスク関連費用は、2,200 万ユーロで安定を維持しました。2014 年度第 3 四半期の CAL&F の純利益グループ帰属分は、1,000 万ユーロ(前年同期は 1,600 万ユーロ)の税引き後で前年同期比 41%増の 2,200 万ユーロとなりました。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2014 年度第 3 四半期の法人及び投資銀行の純利益グループ帰属分は、2 億 4,100 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジ(純利益グループ帰属分の+1,300 万ユーロ)及び DVA running の影響(純利益グループ帰属分の-1,700 万ユーロ)を修正再表示すると、当期の純利益グループ帰属分は 2 億 4,500 万ユーロとなりました。

ファイナンス事業は、修正再表示した純利益グループ帰属分に 1 億 9,000 万ユーロ寄与し(2013 年度第 3 四半期は 1 億 9,500 万ユーロ)、また、資本市場及び投資銀行部門は 4,200 万ユーロ寄与しました(2013 年度第 3 四半期は-4,000 万ユーロ)。

2014 年度第 3 四半期の非継続事業の実績は、2013 年度第 3 四半期の-2,100 万ユーロに対して 1,300 万ユーロとなりました。

CA-CIB の合計(非継続事業を含む)

(in millions of euros)	Q3-14	Q3-14*	Q3-13	Q3-13*	Change Q3*/Q3*
Revenues	941	949	850	897	+5.6%
<i>o/w Financing activities</i>	550	530	511	511	+3.8%
<i>o/w Capital markets and investment banking</i>	362	390	327	374	+4.0%
<i>o/w Discontinuing activities</i>	29	29	12	12	x2.3
Operating expenses	(578)	(578)	(568)	(568)	+1.6%
Gross operating income	363	371	282	329	+12.6%
Cost of risk	(65)	(65)	(127)	(127)	(48.9%)
Operating income	298	306	155	202	+51.1%
Share of net income from equity-accounted entities	50	50	35	35	+50.1%
Net income on other assets	3	3	(1)	(1)	nm
Income before tax	351	359	189	236	+52.4%
Tax	(105)	(108)	(80)	(97)	+9.9%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	164	-	nm
Net income	246	251	273	139	+82.3%
Non-controlling interests	5	6	7	5	+35.7%
Net income Group share	241	245	266	134	+83.9%

* ローン・ヘッジ、DVA running の影響、及び 2013 年度のプロローカレッジ事業に関連する影響について修正再表示。

注記:2013 年度の数字は、IFRS 第 11 号の新たな適用に従って UBAF を表示するように調整されている。

2014 年度第 3 四半期の**ファイナンス事業**の収益は、ローン・ヘッジの影響を除いて、前年同期比 3.8%増の 5 億 3,000 万ユーロを記録しました。商業銀行部門の収益は、特に貿易金融事業における金利マージンと営業活動の増加により、前年同期比 2.2%増の 2 億 3,500 万ユーロとなりました。ストラクチャード・ファイナンスの収益は、手数料収入の伸びにより買収ファイナンス、航空機及び鉄道部門が牽引する形で、前年同期比 5.0%増の 2 億 9,500 万ユーロとなりました。平均四半期流動性消費に対する特殊要因を除いたローリング 4 四半期収入の比率は、前年同期の 2.31%に対して当期は 2.43%となりました。

クレディ・アグリコル CIB は、フランスのシンジケーション部門で主導的地位を維持しました(第 1 位)¹。この部門はまた、西ヨーロッパ圏及び EMEA 圏¹でそれぞれ第 2 位にランクされると共に、EMEA 圏での法人向けローンシンジケーションで第 3 位¹にランクされました。また、EMEA 圏でのプロジェクトファイナンス・アレンジメントで第 3 位¹にランクされたほか、航空機ファイナンスで引き続き世界のリーダーとなっています²。

2014 年度第 3 四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の収益は、DVA running の影響を除くと、前年同期比 4.0%増の 3 億 9,000 万ユーロとなりました。

当期の債券による収益は、資金取引の好業績と与信活動の微増を主な要因として 6.9%増の 3 億 5,500 万ユーロとなり、8 月の活動低迷に伴う他部門の不振を補いました。

CACIB は、フランスでの転換社債¹と欧州 ABCP 証券化³の主幹事業で第 1 位を維持しました。また、国際機関の債券発行で世界第 3 位から第 1 位になると共に、金融機関のユーロ建て債券発行で世界第 3 位を維持しています¹。CACIB は、Abengoa(欧州第 1 位の高利回りグリーンボンド)、MHB(第 1 位の ESG カバードボンド)、欧州投資銀行(12 年物グリーンボンド)、及び KfW(15 億ユーロ)とフランス開発庁(10 億ユーロ)の初の債券発行など革新的な取引のアレンジメントによってグリーンボンド⁴市場でリーダーとなっています。

投資銀行部門の収益は、8 月の業績不振を主な要因として、前年同期比 16.7%減の 3,500 万ユーロとなりました。CACIB は、フランスの参加¹により M&A の成立案件で第 3 位の地位を維持しています。

2014 年 9 月 30 日現在の最大損失予想額(VaR)は、非常に低い 500 万ユーロにとどまりました(2014 年度第 3 四半期の平均は 600 万ユーロ)。

2014 年度第 3 四半期の**法人営業及び投資銀行部門**の営業費用は、前年同期比で 1.6%増となりました。

2014 年度第 3 四半期には、前年同期の 1 億 2,700 万ユーロから減少となる 6,500 万ユーロの費用純額がリスク関連費用として計上されました。これは、限られた件数の取引についての特別引当金を反映しています。

2014 年度第 3 四半期の持分法適用会社からの利益シェアは、主にバンク・サウジ・フランジの寄与に

¹ 出典:トムソン・ファイナンシャル。

² 出典:Air Finance Database。

³ 出典:CP ウェア。

⁴ 出典:Climate Bond Initiative。

よるプラス影響により、前年度の 3,500 万ユーロに対して 5,000 万ユーロとなりました。

なお、2013 年度第 3 四半期の非継続事業又は売却目的保有事業の純利益には、CLSA の売却益とニューエッジ・グループの 50%売却案の影響が含まれています。

全体では、**法人営業及び投資銀行部門**の 2014 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、ローン・ヘッジと DVA running の影響の修正再表示後で 2 億 4,500 万ユーロとなりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	(347)	(30.6%)	(1,483)	(15.5%)
<i>of which cost of funds</i>	<i>(637)</i>	<i>+19.2%</i>	<i>(1,901)</i>	<i>+18.7%</i>
<i>of which Switch*</i>	<i>(192)</i>	<i>+77.8%</i>	<i>(565)</i>	<i>+73.3%</i>
<i>of which financial management</i>	<i>81</i>	<i>(53.1%)</i>	<i>259</i>	<i>x 4.1</i>
<i>of which issuer spreads</i>	<i>65</i>	<i>nm</i>	<i>(220)</i>	<i>(59.6%)</i>
<i>of which other</i>	<i>144</i>	<i>+27.7%</i>	<i>379</i>	<i>+15.7%</i>
Operating expenses	(213)	(9.8%)	(652)	(2.4%)
Gross operating income	(560)	(23.9%)	(2,135)	(11.9%)
Cost of risk	(65)	nm	29	(59.3%)
Operating income	(625)	(14.6%)	(2,106)	(10.4%)
Share of net income from equity-accounted entities	(9)	nm	24	nm
Net income on other assets	(1)	nm	4	nm
Income before tax	(635)	(8.7%)	(2,078)	(12.9%)
Tax	306	(8.7%)	889	(3.3%)
Net income	(329)	(8.8%)	(1,189)	(18.9%)
Non-controlling interests	22	(34.5%)	78	(33.0%)
Net income Group share	(351)	(10.9%)	(1,267)	(19.9%)

* 2013 年度第 3 四半期の株主貸付と T3CJ に関する報酬を含む。

2014 年度第 3 四半期の収益は、前年同期の-5 億ユーロに対して-3 億 4,700 万ユーロでした。この中には、Switch 保証のパート 1 及び 2 のコストである-1 億 9,200 万ユーロ(株主貸付の金利と「T3CJ」劣後債を含めて 2013 年度第 3 四半期は-1 億 800 万ユーロ)、インフレリスクの適切なヘッジ(2013 年度第 3 四半期は 5,000 万ユーロのコスト)、金利マージンの構造的改善、及びユーラゼオ社の株式転換可能債券の公正価額の変動分である 500 万ユーロ(2014 年度第 1 四半期は-4,100 万ユーロ、2014 年度第 2 四半期が+2,300 万ユーロ)などが含まれています。なお、2013 年度第 3 四半期の収益には、バンキーターの売却益(+1 億 4,300 万ユーロ)とポートフォリオ売却益(+7,600 万ユーロ)などの非経常項目が含まれています。クレディ・アグリコル CIB の発行体スプレッドとユニット・リンク型保険契約に関連するスプレッドは、前年同期の-2 億 5,200 万ユーロのマイナス影響に対して、当期は 6,500 万ユーロのプラス影響をもたらしました。全体として、発行体スプレッドを除いた当期の収益は、発行体スプレッド、バンキーターの売却益、及びポートフォリオ売却益を除いて、前年同期の-4 億 6,700 万ユーロに対して-4 億 1,200 万ユーロとなりました。

2014 年度第 3 四半期の営業費用は前年同期比で 9.8%減となり、クレディ・アグリコル・イモビリエの自主早期退職制度について 2013 年度第 3 四半期に引き当てられた 2,000 万ユーロを除いた場合は 1.4%減となりました。

リスク関連費用は、一般法務引当金の費用を含めて 6,500 万ユーロでした。

したがって、2014 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は-3 億 5,100 万ユーロとなりました(発行体スプレッドの影響を除くと-3 億 9,300 万ユーロ)。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2014年9月末現在の当グループの顧客ローン残高は、総額で7,050億ユーロとなりました。地域銀行、LCL、及び国際リテール・バンキングの子会社は、オン・バランスシート預金が2014年9月末現在で前年比2.8%増の4,840億ユーロを記録しました。資金調達に関しては、オン・バランスシートの顧客預金が6,250億ユーロに達しました。

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-14	Change Q3/Q3	9M-14	Change 9M/9M
Revenues	7,550	+1.3%	22,896	+1.0%
Operating expenses	(4,772)	+0.2%	(14,275)	+0.3%
Gross operating income	2,778	+3.2%	8,621	+2.3%
Cost of risk	(684)	(17.1%)	(2,331)	(20.6%)
Operating income	2,094	+12.1%	6,290	+14.5%
Share of net income from equity-accounted entities	82	(11.8%)	(445)	nm
Net income on other assets	4	nm	7	(58.8%)
Change in value of goodwill	1	nm	-	(97.7%)
Income before tax	2,181	+11.2%	5,852	+3.2%
Tax	(616)	(1.1%)	(1,999)	+11.7%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	nm	5	nm
Net income	1,565	+2.8%	3,858	(5.8%)
Net income Group share	1,463	+2.1%	3,588	(6.6%)

2014年度第3四半期のクレディ・アグリコル・グループの**収益**は、前年同期比1.3%増の75億5,000万ユーロとなりました。事業活動とは無関係の項目(発行体スプレッド、DVA running、及びローン・ヘッジ)は、2013年度第3四半期の-2億9,900万ユーロに対して+5,700万ユーロでした。この中には、当グループが保有するバンキーターの残りの持分の売却益である1億4,300万ユーロも含まれています。

2014年度第3四半期の**営業費用**は、前年同期比で0.2%増、前年9ヶ月累計期間比では0.3%増となりました。

2014年度第3四半期の**リスク関連費用**は、前年同期の残高の40ベース・ポイントに対して34ベース・ポイントとなり、前年同期比17.1%減となりました。この減少は特に、フランスのリテール・バンキング部門とファイナンス事業(専門金融サービス部門と法人営業及び投資銀行部門)で顕著でした。

2014年度第3四半期の**持分法適用会社の利益シェア**は、前年同期比11.8%減の8,200万ユーロとなりました。

全体では、2014年度第3四半期の**純利益グループ帰属分**は、前年同期の14億3,300万ユーロに

対して 2.1%増となる 14 億 6,300 万ユーロでした。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the third quarter of 2014 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website <http://www.credit-agricole.com/en/Investor-and-shareholder> under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

INVESTOR RELATIONS + 33 1 43 23 04 31			
Denis Kleiber	+ 33 1 43 23 26 78	Laurence Gascon	+ 33 1 57 72 38 63
Nathalie Auzenat	+ 33 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+ 33 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 1 43 23 15 99
Aleth Degrand	+ 33 1 43 23 23 81	Aurélie Marboeuf	+ 33 1 57 72 38 05

Disclaimer

The figures presented for the first nine month 2014 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and it has not been audited.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.